



信太 和子
(大河・生々・みどりの会連合)

1期目最後の年度の市長のプランとは

質 1期目最終年度である21年度予算案において、市長が立候補時に住民に約束した「私にはプランがあります」の市長のプランとは何か。「齊藤市政らしさ」とは何を指しているのか。

答 段階を分けて一歩ずつ着実に希望が持てる将来の姿へつなげるという考え方で、合併直後の課題を整理方向づけし、新市の行政対応や当面の課題に取り組み、将来の核となる事業や基礎固めを行ってきた。総合計画の将来像に思いは込められており、21年度予算の中で具体化した新規事業に「私らしさ」が現れている。

秋田社会保険病院の存続

質 厚生労働省は全国の社会保険病院を来年10月までに売却を完了することである。秋田社会保険病院は能代山本の拠点病院であり、あるべき形態を検討して国と話し合うべきでは。

答 社会保険庁では、社会保険病院の整理・売却の指針案として地域医療体制を損なわないことを前提に、移譲の有無について考慮していく意向も示している。市としては、公的機関の機能を維持した状態で存続できるよう、病院関係者を初め、地域住民や近隣自治体とも協力体制を強化し、要望活動を継続していく。

その他の質問事項

- ・ 中心市街地活性化
- ・ 国民健康保険税
- ・ 全国学力・学習状況調査



松谷 福三
(創風会)

単独事業の早期発注、工事発注の平準化は

質 世界的不況が続く中、経済対策として地方自治体の裁量で実施できる単独事業を、早期発注すべきではないか。また、工事発注の平準化への取り組み状況は。

答 単独事業の早期発注は地域の経済対策として効果的であり、取り組むべき課題である。これまでも工事発注の平準化のため、債務負担行為を設定し、速やかに入札できるよう準備を進めている。今後も、調査・設計等を前年度に実施するなど、発注前に必要な作業をこれまで以上に迅速に行い、早期発注に努めていきたい。

19年度決算を踏まえた能代市の財政

質 19年度の財源不足は当初予算編成時に予測できたものでは。また、20年度以降の財政改善施策の有無と19年度決算を踏まえた将来的財政運営の見通しは。

答 19年度の財源不足は普通交付税の予算割れ等、当初予算編成時に予測できなかったものがあつたためである。将来的財政運営の見通しは、今後も景気の悪化等により歳入は市税、各種交付金等が減少し、歳出は社会保障関係経費の増加が予測されるが、市税等の一般財源の確保と行財政改革による歳出の縮減を着実に積み重ねていく必要がある。

その他の質問事項

- ・ 能代市の財政(健全財政/実質単年度収支/普通交付税/投資的経費/繰出金の削減計画)



小林 秀彦
(日本共産党)

平成21年度の転作実施について市の考え

質 昨年と比較して転作助成金は減らされたのではないか。これでは農家は安心して米づくりや水田のフル活用に取り組めないのではないか。こうした国の矛盾したやり方をどう考えるか。

答 21年度は転作面積が20年度より更に約90ヘクタール増加したことから助成単価の減額を行った。これ以上生産調整の強化による農家負担は限界と感じている。2月26日に東北農政局訪問に対し、転作面積の増加で助成金が減額される現況では、生産調整に取り組む農家の意欲の維持は難しいと伝えた。今後も機会をとらえ要望していく。

学校給食

質 子供たちには毎日でも米飯給食を提供できたらと願っているひとりである。各学校ごとの米飯給食の回数は何回か。

答 ニッ井地域では週4回、能代地域では3小学校が週3回、その他の小中学校では原則週2回の米飯給食を実施している。現在、能代地域では米飯設備が整っている一部の共同調理場を除いて大部分を委託により対応しているが、建設予定の南部・二ツ井共同調理場の完成後、回数をふやしていきたいと考えている。

その他の質問事項

- ・ 緊急雇用対策と失業者への支援
- ・ イオン出店
- ・ 経済不況での高校就学への支援